

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員 殿

福岡県病虫害防除所長

平成25年度病虫害発生予報第10号（1月）について

このことについて、病虫害発生予報第10号を発表したので送付します。

予報第10号

1月における主な病虫害の発生動向は、次のように予想されます。

主な病虫害の発生予報概要

作物名	病虫害名	発生量 (現況)	発生量 (1月の発生予報)	
		平年比	平年比	前年比
冬春イチゴ	うどんこ病 ハダニ類	やや少 並	やや少 並	並 並
冬春ナス	すすかび病	少	少	並
冬春トマト	葉かび病	少	少	並
冬春キュウリ	べと病 うどんこ病	やや少 やや少	やや少 やや少	やや多 並
野菜共通	ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	少 並	少 並	少 並

<予想される向こう1か月の天候（平成25年12月14日～平成26年1月13日）>

平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は平年並か低いでしょう。降水量は平年並か多いでしょう。日照時間は平年より少ないでしょう。

週別の気温は、1週間目は平年並か低く、2週間目は平年並、3～4週間目は平年より低いでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

要素	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	40	40	20
降水量	20	40	40
日照時間	40	30	30

（福岡管区气象台 平成25年12月13日発表抜粋）

## 作物別発生予報

- 注①：この予報は病害虫防除所の現地調査結果に基づき、情報作成会議を経て作成しています。  
 注②：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（+）は発生を助長する要因、（-）は発生を抑制する要因、（±）は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示します。

### 【野菜：冬春イチゴ】

#### 1 うどんこ病

##### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年並

##### (2) 予報の根拠

ア 1 2月 3 半月調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（-）。

発病株率 0%（過去9か年平均 0.7%、前年 0.1%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か多いとされている（±）。

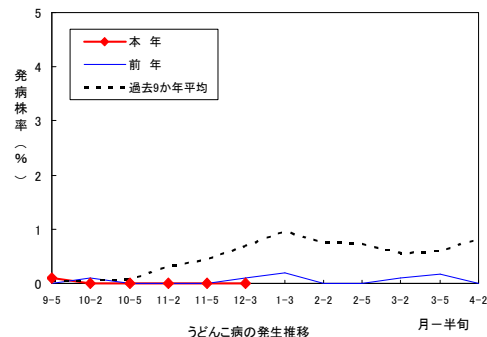
##### (3) 防除上の注意

ア 早期発見に努め、下葉かぎ後、薬液が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。

イハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

ウ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

エ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p 6の内容を確認の上、適切に実施する（以下の病害虫についても同様）。



#### 2 ハダニ類

##### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

##### (2) 予報の根拠

ア 1 2月 3 半月調査の結果、発生量は平年並であった（±）。

寄生株率 7.3%（過去9か年平均 7.4%、前年 5.7%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か多いとされている（-）。

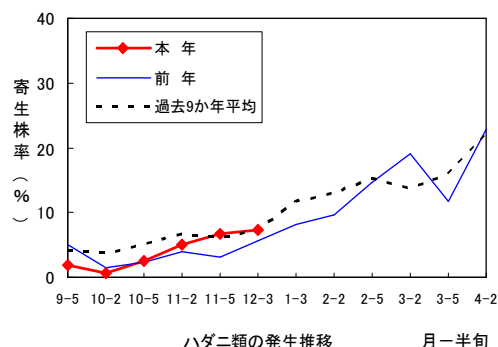
##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、初期防除を徹底する。

イ 防除は摘葉後に行うと効果的である。また、摘葉した葉や除去した雑草は、ハウス内に放置せず、ビニル袋に入れ密封し処分する。

ウ ハウス内の除草を徹底する。

エ 天敵を利用する場合は、天敵類への影響が大きい合成ピレスロイド系、ピラゾール系の薬剤は使用しない。



### 【野菜：冬春なす】

#### 1 すずかび病

##### (1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

##### (2) 予報の根拠

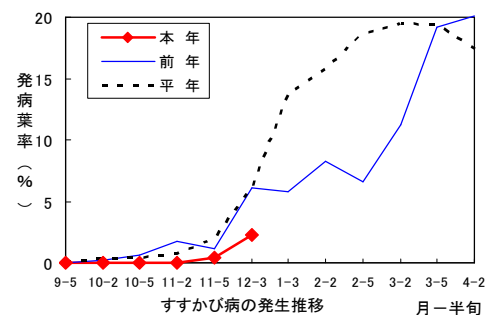
ア 1 2月 3 半月調査の結果、発生量は平年より少なかった（-）。

発病葉率 2.2%（平年 6.1%、前年 6.1%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か多いとされている（±）。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 病勢が進展すると防除が困難であるため、初期防除を徹底する。



- イ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ウ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

## 【野菜：冬春トマト】

### 1 葉かび病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(－)。

発病葉率 0% (平年 2.2%、前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か多いとされている(±)。

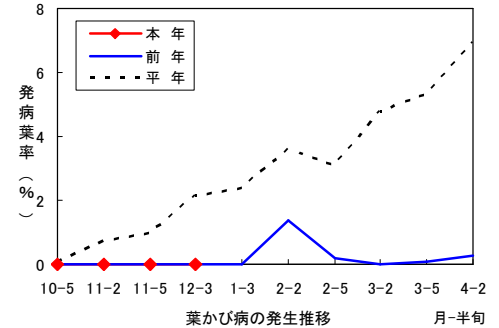
#### (3) 防除上の注意

ア 薬剤は葉の裏側にも十分かかるよう丁寧に散布する。

イハウスの換気を行い、多湿にならないように管理する。

ウ 肥料切れを起こすと発生しやすくなるので、適正な肥培管理を行う。

エ 抵抗性品種での発生も確認されているので、抵抗性品種を栽培しているほ場でも、葉かび病の発生に注意する。



## 【野菜：冬春キュウリ】

### 1 ベと病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年よりやや多

#### (2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量はやや少なかった(－)。

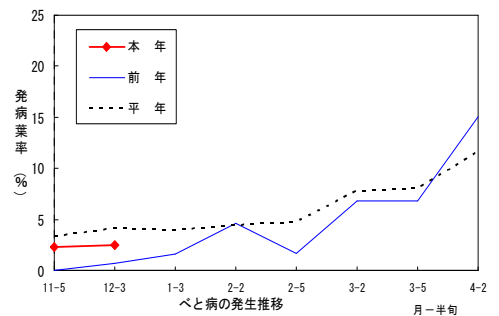
発病葉率 2.5% (平年 4.2%、前年 0.7%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か多いとされている(±)。

#### (3) 防除上の注意

ア 病勢が進展してからでは防除が困難であるため、初期防除を徹底する。

イ 肥料切れや成り込みによる草勢の衰えは発生を助長するので、適正な肥培管理を行う。



### 2 うどんこ病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった(－)。

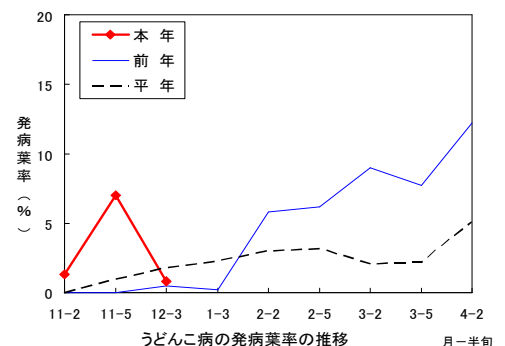
発病葉率 0.8% (平年 1.8%、前年 0.5%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か多いとされている(±)。

#### (3) 防除上の注意

ア 罹病葉はできる限り除去するとともに、葉の裏側にも十分かかるよう丁寧に散布する。

イ 窒素肥料の多用は本病の発生を助長するので、適正な肥培管理を行う。



## 【野菜共通】

### 1 ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、ナスでの発生量は平年より少なかった(一)。

ナス寄生葉率 8.9% (平年 20.5%、前年 37.8%)

ナス発生ほ場率 78.0% (平年 84.2%、前年 100%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か多いとされている(一)。

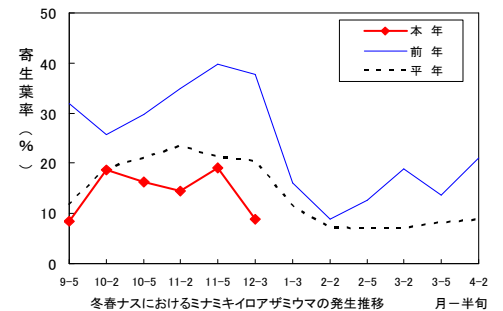
(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉裏への寄生が多いので、散布ムラがないように散布する。また、多発した場合は、約1週間後にもう一度薬剤散布を行う。

イ ほ場内の除草を徹底し、本種の増殖源を絶つ。

ウ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

エ 天敵を利用する場合は、薬剤の選定に留意する。



### 2 コナジラミ類

(1) 予報の内容

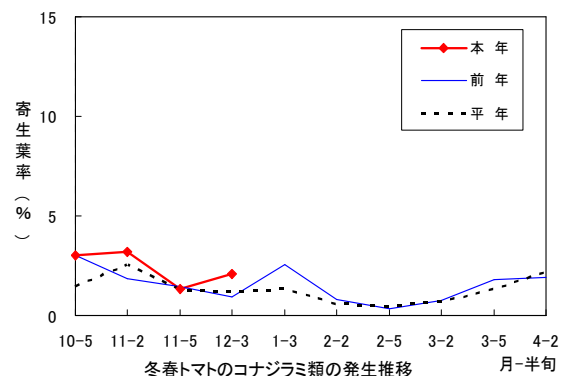
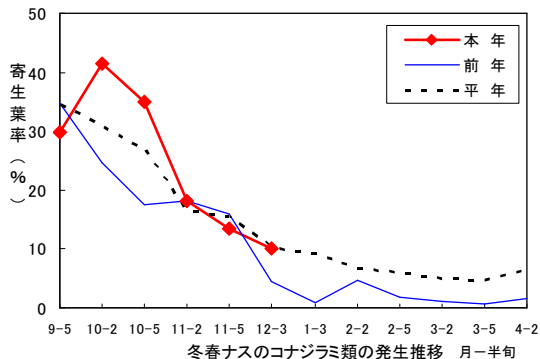
発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

ナス寄生葉率 10.0% (平年 10.4%、前年 4.4%)

トマト寄生葉率 2.1% (平年 1.2%、前年 0.9%)



イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並か多いとされている(一)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ほ場内の雑草の除去を徹底し、害虫の生息と増殖源を絶つ。

イ 幼虫や蛹が寄生している下位葉は、できる限り除去する。

ウ 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように散布する。

エ 施設栽培では、成虫のハウス外への飛散防止のため、0.4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。

オ トマト黄化葉巻病 (TYLCV) の罹病株は、早期に抜き取りほ場外へ持ち出す。

【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (1月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
冬春イチゴ 灰色かび病	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>罹病果は見つけ次第除去する。</li> <li>また、下葉かぎを随時行い、株間の通風を図って湿度を低下させる。</li> </ul>
冬春ナス 灰色かび病	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>罹病葉や罹病果実は早めに除去し、ほ場外へ処分する。</li> </ul>
冬春トマト 灰色かび病	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>開花後の萎れた花卉は、伝染源となるので取り除く。</li> </ul>
冬春キュウリ 灰色かび病 褐斑病	並 少	並 少	並 並	<ul style="list-style-type: none"> <li>開花後の萎れた花卉に、灰色のかびを認めたら防除を開始する。</li> <li>初期防除を徹底する。</li> </ul>
冬キャベツ 黒腐病 菌核病 コナガ	やや多 並 少	やや多 並 少	やや多 並 並	<ul style="list-style-type: none"> <li>予防散布に努める。</li> <li>防除適期は結球開始期である。</li> <li>株元に十分かかるように、株周囲から散布する。</li> <li>若齢幼虫期に防除する。</li> </ul>
冬レタス 灰色かび病 菌核病 腐敗病	並 並 並	並 並 並	並 並 並	<ul style="list-style-type: none"> <li>発病株は、抜き取り処分後、直ちに薬剤散布する。</li> <li>灰色かび病との同時防除を行う。</li> </ul>

# 農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、啓発チラシの配布等を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・有用昆虫・河川等に対する配慮について、ご指導をお願いします。

## 1 農薬ラベル確認の徹底

(適用作物・使用量や濃度・使用時期・総使用回数・有用生物〈みつばち等への影響〉)

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤 40 は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

## 2 散布前における情報提供の実施

(散布区域に近接するほ場、住宅地、養蜂等の関係者、他)

## 3 散布時には近隣作物や住宅地等周辺への飛散防止を徹底

- ・ 風、散布方向、散布時間、散布圧に留意。
- ・ 飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用。
- ・ 散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意。

## 4 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を3回洗浄

## 5 防除履歴の正確な記帳

- ・ 薬剤散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳。

## 6 空容器の処分

- ・ 空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。  
また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>  
電子メール [kfok0301@sp.jppn.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jppn.ne.jp)